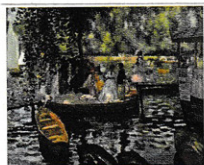
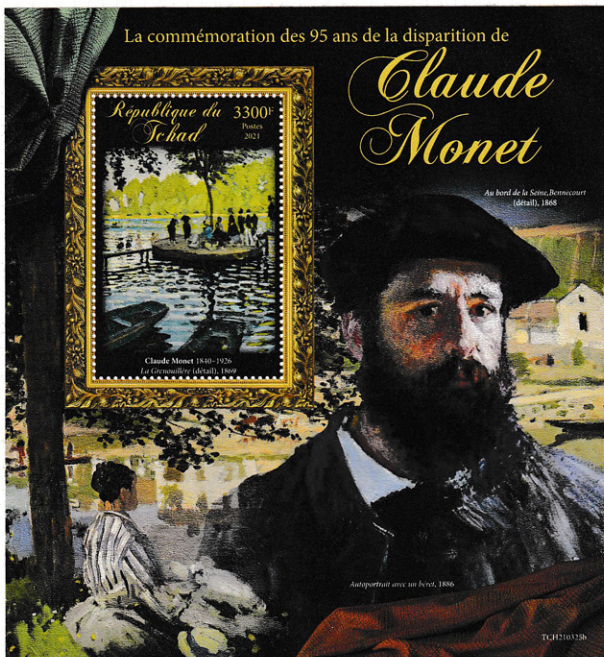


# わたしの「印象派切手展」へようこそ — クロード・モネと仲間たち —

クロード・モネは、光かがやくとてもきれいな水面を描く画家です。モネの仲間たちは印象派と呼ばれています。木もれ日や水面などの光、空気感のようなふんいぎを絵画に描こうとチャレンジを続けた人たちです。



ルノアールの  
クラ・グルヌイエール

クラ・グルヌイエール

1869年(モネ28才)

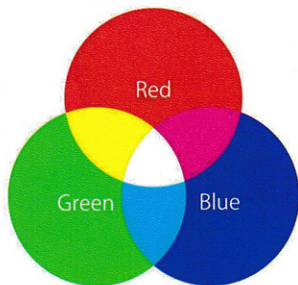
モネは、親友ルノアールと並んで絵を描き、筆触分割を一緒に研究しました。

モネが水面の光に注力して描いているのに対して、ルノアールは人々のふんいぎに注力して描いています。

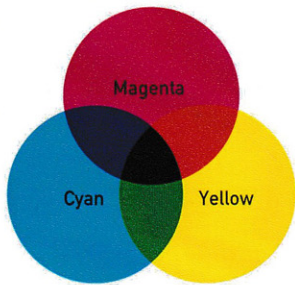
この二人は、それぞれのとくちょうを究めていくこととなります。

2年生のとき、切手を使って色の自由研究をしました。  
 その中で、RGBという光の加法混色とYMCKという絵の具の減法混色を学びました。

RGB  
光の加法混色

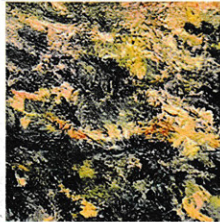


YMCK  
絵の具の減法混色



### 光の表現

印象派の画家たちは、自然の光を絵の具でどう表現するか、研究しています。光の変化を素早く描きとめるために、色は混ぜずに、「筆触分割（ひっしょくぶんかつ）」という、色んな原色を一筆一筆で組み合わせることで、遠目には色が混ざって見える技法を使います。減法混色をしないので、絵全体が明るく見えます。また、影なども黒ではなく、青や補色（色相環の中で反対側にある色）同士を組み合わせ、上手く暗い感じを表現します。



絵を近くでよく見てみると、筆でペタペタと色んな色の組み合わせで、描かれていて、なんだかよく分かりません。でも、少し離れて見ると水面に映る光ややなぎの木々などが描かれているのがわかります。

『セーヌ河の朝』モネ 国立西洋美術館

## 印象派のリーダー マネ

昔は、サロン・ド・パリという展覧会で絵が  
しんさされていきました。ここで入選し、貴族  
の目にとまると仕事がもらえる仕組みです。  
ここで落選した画家をかわるために、ナポレオ  
ン3世が1863年(モネ22才)に落選者展を  
開きました。この落選者展で、エドゥアール  
・マネが人間の女性のはだかの絵を描いて  
スキャンダルになりました。これまでは、は  
だかを描いていいのは神様だけだったからで  
す。このマネを中心として若い画家たちのグ  
ループができました。



ナポレオン3世  
(当時使われていた切手)



エドゥアール・マネ  
(モネの8才年上)



『草上の昼食』 マネ



フォンテーヌブローの  
森のオーク



庭の女

### 『フォンテーヌブローの森のオーク』

1865年(モネ24才)

空の王者と呼ばれるウジェーヌ=ルイ・ブ  
ーダンに才能を認められ、戸外制作を教え  
てもらったモネは、西密になることになりま  
した。

パリにある絵のじゅくに通い、そこで、後  
の印象派の仲間たちと出会いました。

印象派画家の仲間たち



エドガール・ドガ (67年上)



メアリー・カサット (74年下)

PAUL SIGNAC 0,75 € 1863-1935



ポール・シニャック (74年下)



フィンセント (87年下)  
・ファン・ゴッホ

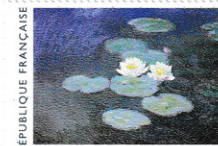


(87年上)

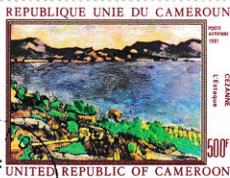
エドゥアール・マネ



ベルト・モリゾ (87年下)



クロード・モネ



ポール・セザンヌ (74年下)



ポール・ゴーガン (87年下)



カミーユ・ピサロ (107年上)



アルフレッド・シスレー (74年下)



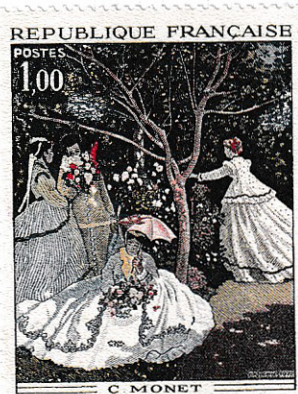
ルノワール (74年下)



(87年下) キュスターツ  
・カイコボット

- 友人
- えいきょう
- そんなじい
- しえん
- 親せき

# 妻カミーユとのびんぼう生活



庭の女たち

屋外で大きなキャンパスに描きました。クレーンで絵を吊り下げて絵を上下させ目線が変わらないように工夫しました。

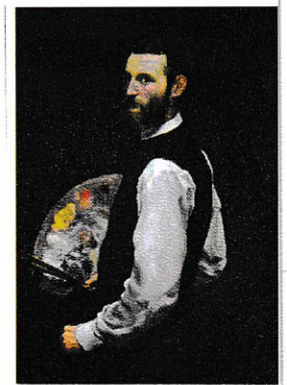
## 『庭の女たち』

1867年(モネ26才)

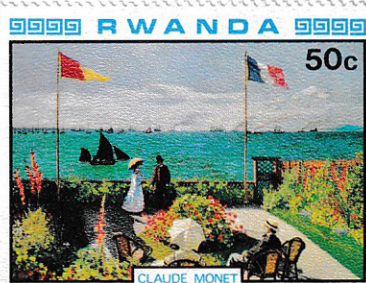
この女性たちは、後に結婚するカミーユがそれぞれのポーズをとりました。女性の服は雑誌をさんこうに流行を描いたものです。しかし、この絵はサロンに落選しました。

この時カミーユのお腹にはモネの子どもがいました。びんぼうなモネにとって絵が売れないのは大ピンチです。その

時、親友画家のジャン・フレデリック・バジールがこの絵を買い取ってくれました。モネの長男ジャンの名前は、このバジールから名付けられました。



親友バジール



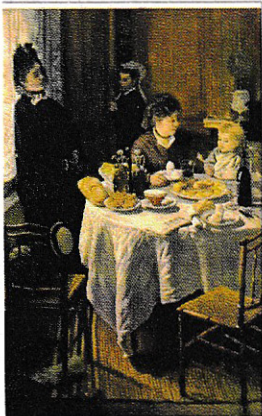
サン・タドレヌのテラス

## 『サン・タドレヌのテラス』

1867年(モネ26才)

モネの家族が描かれています。カミーユとの結婚がみとめられないまま、長男のジャンが産まれます。

落選が続いてお金がなかったモネは、生活費を節約するために家族の所ですごします。



モネの昼食

現実は食べるのに困っていましたが、カミーユとジャンの食事風景にあこがれて描きました。



トルーヴイルの浜辺にて

『トルーヴイルの浜辺にて』

1870年(モネ29才)

モネはオミーユと結婚しました。トルーヴイルは新婚旅行で行きました。海岸で描いたので絵の中に海岸の砂や貝がらがまざりこんでいます。この絵の白い服の女性は、カミーユです。右側が見切れていますが、



『日傘をさした如  
ブーダン』



ブーダンの  
『トルーヴイルの浜』  
(国立西洋美術館)

黒い服を着た女性が描かれていて、それがモネの先生ブーダンの妻です。

## 親友画家バジールの戦死



普仏戦争

1870年、ナポレオン3世のフランスとプロイセンの間で普仏戦争がおきました。

バジールはみずから戦争に行き戦死しました。バジールのお父さんは、戦地に行き、バジールのいたいを家に連れて帰りました。

6年後、バジールの夢だった印象派展の第2回に、マネが持っていた『バジールのしょうそう』が展示されました。バジールのお父さんはその絵に出会い、以前モネを助けるために買取った『庭の女たち』と交換されました。



『バジールのしょうそう』  
ルノアール

## 写実主義から印象主義へ



ミレー おちほおい  
(写実主義)

これまでの絵画は写実主義といわれる見えるものをリアルに描いていくのが良い絵でした。しかし、カメラがたんじょうし、そのままの姿を写しとることよりも、絵でしか表現できないものが追及されてきました。

また、チューブ型の絵の具が開発されたことで、画家は室内アトリエではなく、「戸外制作」ができるようになりました。戸外で絵を描くことで、「光」の表現が重視されるようになってきました。印象派グループは、絵でしか表現できないものとして、変わっていく光・空気感といったふんいき「印象」を極めました。

## 印象派とは？

1873年のサロンで、ピサロ、セザンヌ、シスレー、ルノアールが落選したのをきっかけに、1874年(モネ30才)、このグループがサロン反対の独自の展覧会を開きました。その展覧会でモネが出展した「印象・日の出」が印象でしかないと言われ、このグループは印象派と呼ばれるようになりました。

### 『印象・日の出』

1872年(モネ31才)

印象派の名前の元になったモネのもっとも有名な絵画の一つです。

私には、これからがんばろうというフランスの人たちの気持ちがよくわかる朝日のように感じます。



印象・日の出



ル・アーブル  
港を出る漁船

ル・アーブル 港を出る漁船  
1874年 (モネ33才)  
実家のある子どもころにすごした町です。



ラ・ジャポネーズ

ラ・ジャポネーズ  
1875年 (モネ34才)  
着物の女性はカミーユです。カミーユの笑顔  
がとても幸せそうです。

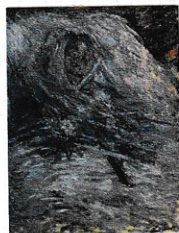
1867年のパリ万博に日本が出展しました。  
ドラマなどでは、徳川幕府・佐賀藩 VS 薩摩  
琉球国の戦いが有名ですが、パリの方では、  
日本ブームが起きて、みんなお浮世絵などを  
集めていました。



散歩・日傘をさす女

散歩・日傘をさす女  
1875年 (モネ34才)  
逆光の中のカミーユとジヤンが描かれています。  
私は、この絵を描いている時が、モネの  
人生で一番幸せだったような気がします。

カミーユは体調を悪くしていき、1879年 (モネ  
38才) に亡くなります。これ以来、モネはあま  
り人の顔を描かなくなります。  
また、カミーユも、モネが有名になる前に亡く  
なってしまったので、最後までひんぼうな画家  
の妻でした。



死の床のカミーユとモネ



## 有名になり印象派の巨匠へ

『ボルディゲラの情景』

1884年(モネ40歳)

マネが亡くなります。親友ルノアールと地中海のボルディゲラに旅行に行きました。旅行の後、もう一度入って行って描きました。旅行は楽しかったのですが、二人の絵は全く別の道に進んでいて、一緒に描くことはありませんでした。



ボルディゲラの情景



舟遊びをする人々の屋敷ルノアール  
この時期のルノアールは、人になり易く練がましく、  
挽回も古典的になっています。

1886年(モネ45歳) ニューヨークで印象派展が開かれ、印象派はアメリカで売れるようになります。一方、パリの第8回印象派展は、次の世代の新印象派ばかりになっていました。

1889年にモネがずっと望んでいたオーギュスト・ロダンの2人展が実現します。



ロダン

『ジヴェルニーの積みわら 夕日』

1889年(モネ48歳)

積みわらの周りにかがやく光にひかれて、一枚一枚絵を描くようになっていきます。



84 NIPPON

ジヴェルニーの積みわら  
夕日

有名になりお金に困らなくなったモネは、1890年(モネ49才)に借りていたジヴェルニーの家を買いしました。(1899年に「水の庭」を作って1898年から『すいれん』をたくさん描きようになっただけです。

### 『すいれんの池』

1899年(モネ58才) ポーラ美術館  
初期のすいれんには、日本風のたいこ橋が描かれています。



すいれんの池

1908年(モネ67才) モネの目が悪くなってきます。

1914年(モネ73才)にモネ長男ジャンが亡くなります  
すいれんの大装飾画を描き始めます。



### 『すいれん』

1910年(モネ75才) 国立西洋美術館  
私にとってこのすいれんはこの絵です。  
後期のすいれんは、花よりモネ水面に映る景色をどう描くかにこだわっています。

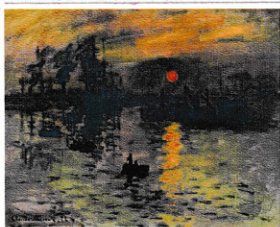


すいれん

1919年(モネ76才)に親友ルノアールが亡くなります。  
目がほとんど見えないうちで、大装飾画『すいれん』の絵を描き続け、1926年に86才で亡くなりました。

モネたちが歴史に与えた影響

印象主義



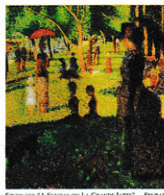
新印象主義



感覚ではなく  
科学的に  
一瞬ではなく  
永遠の時間

ポール・シニャック

TANZANIA 200/-



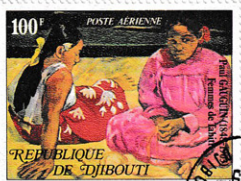
ジョルジュ・スーラ

見える印象ではなく  
心の中の印象

ポスト印象主義



フィンセント・ファン・ゴッホ



ポール・ゴーガン



ポール・セザンヌ

繊細ではない  
心の色彩

フォービズム



アンリ・マティス

反対  
むだをのぞくと  
何が残るか

表現主義



ワシリー・カンディンスキー

立体を二次元で  
表現

キュビズム



パブロ・ピカソ

## 自由研究をとおして

美術の世界シリーズ第1集のモネのすいれんを見るために、リニューアルが終わったばかりの国立西洋美術館に行ってきました。

モネの周りの人たちの絵画と説明も見られて、勉強になりました。印象派といっても、みんな自分の絵を追い求めた人ばかりでした。

また、日本人にモネの絵を見せたいと、シヴェルニーまで本人に絵をもらいに行った松方幸次郎がかっこよかったです。



記念にマキシマムカードを作りました。絵柄を揃えたいといけなるとばかり思っていました。気軽に切手を持って行き、旅行先でポストカードを買って、風景印を押してもらうのは、思い出にもなり、楽しいなと思いました。

